

世界史

解答範囲は、解答番号 から までです。

I 次の文(1)・(2)を読み、下の問い(問1～問13)に答えなさい。

- (1) 2世紀末ごろ、 王朝が外戚と宦官の政治闘争や宗教叛乱によって衰退していくなか、各地に群雄が割拠するようになった。互いに抗争を繰り返したこれらの群雄のなかで最終的に勝ち残った人物が、曹操・孫権・劉備の三人であり、曹操は、孫権は、劉備はをそれぞれ地盤として勢力を振るった。曹操の子の曹丕が皇帝位につき魏王朝を開くと、これに対抗して劉備と孫権も皇帝を称し、ここに天下は魏・呉・蜀の三国に分割されることになった。いわゆる「三国時代」のはじまりである。

三国のうちもっとも優勢であったのが魏である。周縁地域の異民族を軍勢力として取り込む一方、農業生産力の向上につとめ、また九品中正と呼ばれる官吏の登用制度を設けた。この九品中正は次第に硬直化・形骸化し、一部の有力豪族が高位の官を独占し、あわせて家柄の序列が固定化していく状況を促した。魏は263年に蜀を滅ぼしたが、政治の実権はすでに臣下に握られており、その2年後にが晋(西晋)を打ち立て、ここに魏は滅亡することになる。

は土地制度改革を実施するなど内政につとめたが、その没後には内乱が発生して国内は混乱状態に陥り、華北に移住していた遊牧集団の攻撃を受けて滅亡した。316年のことである。この際、王族のひとりが南中国に逃れ、晋を復興した(東晋)。晋(東晋)は長江流域に100年ほど命脈を保ち、その後は比較的短命な四王朝が相次いで興亡することになる。これらの四王朝を「南朝」と総称する。

問5 空欄に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号

- ① 劉邦 ② 司馬炎 ③ 劉秀 ④ 王莽 ⑤ 楊堅

問6 下線部③について。この内乱として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 赤眉の乱 ② 黄巾の乱 ③ 紅巾の乱
④ 黄巢の乱 ⑤ 八王の乱

問7 下線部④について。晋(東晋)に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 建康(現在の南京)に都を置いた。
② 華北からの移住民を受け入れて農地の開拓につとめた。
③ 中央集権化を徹底し、皇帝が絶対的な権力を握った。
④ 軍人によって政権が奪われ、宋が建てられた。

- (2) 316年に晋(西晋)が崩壊すると、華北においては「五胡」と総称される諸集団と漢族が入り混じって各地に政権を樹立する状況となった。五胡十六国時代の幕開けである。この時期、五胡の諸政権はおおむね仏教に好意的な姿勢を示していた。西域出身の仏図澄やなどの僧が君主の庇護のもとに仏寺の建立や經典の翻訳などの諸活動に従事し、不安定な華北社会のなかに身を置いていた人々の精神的な支えとして仏教が広まっていったのである。

4世紀の終わり頃、五胡のひとつである鮮卑の拓跋氏が北魏を建国し、5世紀前半に第3代ののもとに華北の統一を成し遂げ、北に向かってはモンゴル高原のと対峙した。建国当初は遊牧系国家としての気質を多分に保持していた北魏であるが、第6代のの頃には中国の制度や文化を積極的に取り入れ、平城から洛陽に都を移し、中華王朝としての装いを整えるに至った。

問1 空欄に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号

- ① 新 ② 殷 ③ 秦 ④ 周 ⑤ 後漢

問2 空欄・・に入れるのに適当な組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。解答番号

	空欄 イ	空欄 ウ	空欄 エ
①	江南	華北	四川
②	江南	四川	華北
③	華北	江南	四川
④	華北	四川	江南
⑤	四川	華北	江南
⑥	四川	江南	華北

問3 下線部②について。魏が農業生産力の向上を目指して実施した土地制度として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 均田制 ② 占田法 ③ 課田法 ④ 屯田制 ⑤ 三長制

問4 下線部⑤について。九品中正はのちに別の官吏登用制度に改められました。この制度は20世紀初頭まで実施されることになります。九品中正に代わるこの官吏登用制度が始められた王朝として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 唐 ② 明 ③ 隋 ④ 梁 ⑤ 宋

6世紀前半、の国制改革に対する中下層の鮮卑人の反発を一因として内乱が勃発した。この結果、北魏は東西に分裂することになり、東魏は北斉へ、西魏は北周へとそれぞれ王朝が交代した。北周と北斉は対立を深め、当初は北斉が優勢であったが、最終的には北周が北斉を打ち破って併合し、華北を統一した。北魏から北周・北斉に至る王朝の系譜を一般に「北朝」と総称する。

北魏では仏教と道教の双方に対する信仰が確認されるが、とくに仏教信仰の隆盛が顕著であり、皇帝とブッダを一体視する思想を背景として平城の郊外に大規模な石窟寺院が造営され、ここに大仏が造立された。洛陽への遷都後、その郊外にも石窟寺院が開かれている。

問8 空欄に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号

- ① 玄奘 ② 義浄 ③ 法顕 ④ 鳩摩羅什 ⑤ 陶潜

問9 空欄・に入れるのに適当な組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。解答番号

	空欄 キ	空欄 ケ
①	孝文帝	光武帝
②	孝文帝	太武帝
③	光武帝	太武帝
④	光武帝	孝文帝
⑤	太武帝	光武帝
⑥	太武帝	孝文帝

問10 空欄に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号

- ① 月氏 ② 柔然 ③ 烏孫 ④ エフタル ⑤ 匈奴

一般選抜入試(前期日程)

世界史(1月31日)

問11 下線部⑥について。平城と洛陽の位置として正しい組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

	平城	洛陽
①	A	B
②	A	C
③	B	A
④	B	C
⑤	C	A
⑥	C	B



問12 下線部①について。北魏時代の道教とこれに先立つ思想に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 前漢時代に老荘思想に基づく清談が流行した。
- ② 後漢時代に広まった民間信仰の五斗米道は道家の思想に基づく。
- ③ 寇謙之は北魏の道教を大成し、教団をつくり仏教教団に対抗した。
- ④ 老荘思想・民間信仰・神仙思想などが取り込まれて道教が成立した。

問13 空欄 ・ に入れるのに適当な組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

	空欄 コ	空欄 サ
①	莫高窟	竜門石窟
②	莫高窟	雲崗石窟
③	雲崗石窟	莫高窟
④	雲崗石窟	竜門石窟
⑤	竜門石窟	莫高窟
⑥	竜門石窟	雲崗石窟

Ⅱ 次の文(1)・(2)を読み、下の問い(問1～問13)に答えなさい。

(1) アラブ人の宗教であったイスラームはわずか百年足らずで中央アジア・西アジア・地中海沿岸地域に広がりをみせた。こうした急速なイスラーム圏の拡大は、一方でヨーロッパのキリスト教諸国を刺激して軍事的対立が頻発した。その一つが11世紀末に始まった十字軍遠征である。

十字軍遠征は、中央アジアとイランを支配したトルコ系のセルジューク朝がビザンツ帝国領であった に11世紀に西進したことがきっかけとなった。こうしたセルジューク朝の伸張に対抗するために組織された十字軍は、 に侵入して沿岸部に国家を建てて支配したが、それに対抗したのがクルド系軍人のサラーフ=アッディーン(サラディン)である。サラーフ=アッディーンはアイユーブ朝をおこすと経済を安定させて軍隊を強化し、十字軍との戦いを続けた。1250年、アイユーブ朝はクーデタによってマムルーク朝に滅された。マムルーク朝は、強大な軍力で十字軍を から完全に駆逐した。また、アイユーブ朝の政策を引き継ぎ、交易や農業管理にも力を入れて経済的繁栄を築いたが、14世紀半ば以降に衰退した。

他方、イベリア半島では11世紀にキリスト教勢力の南進がすすんでいた。これに対して11世紀半ば、北アフリカに成立したムラービト朝は半島に進出し、キリスト教勢力と対抗した。12世紀には北アフリカでムラービト朝を滅ぼしたムワッヒド朝も同じくイベリア半島に進出し、半島の支配に積極的な姿勢をみせた。しかし、13世紀になると、この王朝も衰えてキリスト教徒連合軍に敗退したことで、イベリア半島の大部分はキリスト教徒の支配下に入った。その後、半島最後のイスラーム王朝となったナスル朝も、1492年に滅ぼされた。

問1 空欄 ・ に入れるのに適当な組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

	空欄 ア	空欄 イ
①	バルカン半島	エジプト
②	エジプト	バルカン半島
③	アナトリア	シリア
④	シリア	アナトリア
⑤	クリミア半島	アゼルバイジャン
⑥	アゼルバイジャン	クリミア半島

問2 下線部②について。セルジューク朝が1055年にバグダードから追放した王朝として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① アッバース朝
- ② ファーティマ朝
- ③ ブワイフ朝
- ④ サーマーン朝
- ⑤ ガズナ朝

問3 下線部⑤について。サラーフ=アッディーン(サラディン)に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ファーティマ朝の宰相であった。
- ② 十字軍と戦って聖地エルサレムを奪回した。
- ③ 第3回十字軍との休戦協定を破棄した。
- ④ エジプトにスンナ派を復興した。

一般選抜入試(前期日程) 世界史(1月31日)

問4 下線部㉔について。マムルーク朝に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 17

- ① 君主号はアミールであった。
- ② イクター制を整備した。
- ③ シーア派の十二イマーム派を国教と定めた。
- ④ ファーティマ朝の血を引くカリフを擁立した。

問5 下線部㉕について。マムルーク朝の衰退の理由に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 18

- ① モンゴルの使節を殺害したことで、チンギス・ハンの侵攻を受けたため。
- ② セルジューク朝に敗れてイラン領を失ったため。
- ③ 黒死病(ペスト)の流行によって人口が激減し、経済が打撃を受けたため。
- ④ パープ教徒の乱によって内政が不安定となったため。

問6 下線部㉖について。キリスト教勢力のイベリア半島奪回運動をさす言葉として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 19

- ① ジハード
- ② タンジマート
- ③ サンディカリズム
- ④ レコンキスタ
- ⑤ シオニズム

問7 下線部㉗について。ナスル朝に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 20

- ① ベルベル人によるスンナ派の改革運動によって成立した。
- ② アルハンブラ宮殿などのすぐれた建造物を残した。
- ③ 新たに成立したランゴバルド王国によって滅ぼされた。
- ④ 首都のコルドバで文化と学問が興隆した。

問8 下線部㉘について。ティムールがオスマン帝国に勝利した戦いとして正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 21

- ① レビフェルトの戦い
- ② トウル・ボワティエ間の戦い
- ③ アンカラの戦い
- ④ ニハーヴァンドの戦い
- ⑤ ニコポリスの戦い

問9 下線部㉙について。ティムールとその子孫が積極的に保護した文化・学芸に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 22

- ① 天文台の建設によって高度な天文観測を行い精緻な暦を作成した。
- ② ペルシア語文学や写本絵画の作品が生み出された。
- ③ 「知恵の館」でギリシア語の文献が盛んにアラビア語に翻訳された。
- ④ 首都には華麗で壮大なモスクやマドラサなどが建設された。

問10 下線部㉚について。オスマン帝国の領土拡大政策に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 23

- ① フランス王と結んでハプスブルク家と対抗した。
- ② モハーチの戦いに勝利してハンガリーを属国とした。
- ③ ウィーンを包囲してヨーロッパ全土に脅威を与えた。
- ④ レバントの海戦でスペイン・ヴェネツィア連合艦隊を破った。

(2) 14世紀半ばにユーラシア大陸を広く支配していたモンゴル帝国が力をうしなって解体すると、アジア各地では新たな地方勢力が台頭し、支配を拡大して大帝국을築いた。そのような流れの先駆けとなったのが中央アジアを拠点としたティムールである。ティムールは、1370年に中央アジアでティムール朝をおこすとイラン、イラクを征服し支配下に組み込んで大帝国をつくりあげた。ティムールはさらに西へ進軍し、アナトリアで勢力を拡大していたオスマン帝国と戦い、これを打ち破った。ところが、さらなる遠征の途中にティムールが病没すると、王朝の政治は分裂と内紛を重ねて一時的に不安定となった。しかし、都では支配層の庇護のもとで商業が発達し、文化も栄えた。

同じころ、アナトリアで支配を広げていたのがオスマン帝国である。ティムールとの戦いに敗れて一時は解体の危機に瀕したが、すみやかに体制を立て直す勢力を回復させた。その後、オスマン帝国はコンスタンティノープルを攻略してビザンツ帝国を滅ぼし、この地を首都とした。16世紀になると、イランの新たな支配者となったサファヴィー朝との戦いに勝利するだけでなく、南進してマムルーク朝を滅ぼしてシリアとエジプトを支配下に入れた。こうしてオスマン帝国は、ヨーロッパ・アジア・アフリカにまたがる大帝国へと発展していった。その過程で非常に発達した官僚制度や軍制を築き、中央集権的な支配を強化した。16世紀に王朝は最盛期をむかえたが、17世紀になると領土拡大は止まった。その後、国内の安定化を図って政治的にも経済的にも安定した繁栄を保った。

15世紀後半、イラン高原北西部やアナトリア東部のトルコ系遊牧民のあいだでは、過激な神秘主義を掲げるサファヴィー教団が支持を広げた。教団は遊牧民の軍勢力を用いて1501年にサファヴィー朝を建国し、短期間でイランを平定した。その後、16世紀後半には首都をウに移し、王朝の最盛期を迎えた。

問11 下線部㉛について。オスマン帝国が組織したスルタン直属の歩兵常備軍として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 24

- ① アーヤーン
- ② デヴシルメ
- ③ ズインミー
- ④ ティマール
- ⑤ エュニチュェリ

問12 下線部㉜について。サファヴィー朝の最盛期を現出したアッバース1世に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 25

- ① ボルトガル人をホルムズ島から追放した。
- ② 王直属の軍隊を整備してオスマン帝国からイラクを一時的に奪回した。
- ③ ヨーロッパの商人を歓迎してカビチュレーションと呼ばれる特権を認めた。
- ④ アルメニア商人の対外貿易を推奨して絹取引をさかんにした。

問13 空欄ウに入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 26

- ① テヘラン
- ② タブリーズ
- ③ プハラ
- ④ バグダード
- ⑤ イスファハーン

英語	一般選抜入試(前期日程) 世界史(1月31日)	
日本史		
世界史		
政治・経済		
数学(文系型)		
数学(理系型)		
物理		
化学		
生物		
正解・正解例	講評	
国語		

Ⅲ 次の文を読んで、下の問い（問1～問14）に答えなさい。

オットー＝フォン＝ビスマルクは、長きにわたって分裂状態にあったドイツの地に統一国家を打ち立てた人物である。またドイツ建国後の諸政策、とりわけ彼の下で構築された国際体制は、ドイツを含めた世界の行く末に大きな影響を与えた。以下、彼の生涯をたどってみよう。

彼は1815年、ドイツ北東部に位置するブランデンブルク州のエンカーの家系に生まれた。^⑤大学卒業後、軍務や領地経営を経て政界入りし、^⑥三月革命の際には反革命派として活動した。その後もドイツ連邦議会のプロイセン代表や各国大使を歴任した後、プロイセン国王ヴィルヘルム1世から首相に任じられた。軍備拡張をめぐる論戦のなかで語った一節、「現下の大きな諸問題が決せられるのは、演説や多数決によってではなく、鉄と血によってなのだ」（1862年9月）との「鉄血演説」はつとに知られている。

ビスマルクが率いるプロイセンは、ドイツ統一に至る道程において、3つの戦争を戦った。オーストリアと共に戦ったデンマークとの戦争（1864年）では、シュレスヴィヒ・ホルシュタインを奪った。さらに、その戦後処理をめぐって生じたオーストリアとの戦争（1866年）に際してはイタリアと同盟を締結したうえで開戦し、^④勝利を収めた。これにより北ドイツ連邦が成立し、オーストリアはドイツ統一から排除された。さらに、スペイン王位の継承問題における対立を契機としてフランス皇帝ナポレオン3世を挑発し、ドイツ＝フランス戦争（プロイセン＝フランス戦争）を起こさせた。プロイセン軍はフランス軍を緒戦から圧倒、ナポレオン3世を捕虜とした後にはパリまで侵攻し、勝利を収めた（1870～71年）。この戦争中にヴェルサイユ宮殿においてドイツ帝国の成立が宣言されたのである。もっとも、この際にフランスから莫大な賠償金とともに、^⑦「ア」を得たことは独仏関係の決定的悪化を招いた。

統一後のビスマルクの国内政策に目を移すと、彼は文化闘争で「イ」勢力の弱体化を試みた。さらに「ウ」者鎮圧法（1878年）を制定する反面、各種社会保険制度を整備し、労働者の懐柔を図った。また「鉄と穀物」の同盟として知られる保護関税政策により、外国からの工業製品や農産物の流入阻止を図った。

ビスマルクは、対外的にはフランスの孤立を軸とする国際体制、いわゆる「ビスマ

ルク体制」を作り上げた。まず、ロシア、オーストリア＝ハンガリーと三帝同盟を形成し、東方の安定を図った。ところが、オスマン帝国（トルコ）領内における農民反乱に始まった国際危機は、^①ロシア＝トルコ戦争（1877～78年）を引き起こした。この戦争はサン＝ステファノ条約（1878年）の締結で終わったものの、同条約のロシア寄りの内容にイギリスとオーストリア＝ハンガリーが反発した。この状況において「誠実なる仲買人」を自称するビスマルクは列強の利害調整に努め、^⑤ベルリン条約（1878年）の調印にこぎつけた。

ビスマルクは、ベルリン条約後にロシア、オーストリア＝ハンガリーとの三帝同盟を復活させ、その消滅後にはロシアと再保障条約を締結した。オーストリアとは独逸同盟を締結するとともに、「エ」をめぐるフランスと対立した「オ」も独逸同盟に加入させたことで三国同盟となった。ビスマルクはまた、列強諸国の対立をヨーロッパ外に「輸出」しようと図った。アフリカにおける領土獲得競争におけるベルギー国王レオポルド2世による「カ」進出への反発をうけ、ビスマルクは、ベルリン会議（1884～85年）を開催し、「先占権」の原則を確認した。これを機にアフリカ大陸の分割は加速し、大半がヨーロッパ列強の植民地となった。もっとも、エチオピアはアドワの戦い（1896年）において「キ」の侵略を退け、独立を保った。ビスマルクは当初、植民地獲得に積極的ではなかったものの、その後ドイツは、カメルーンや東アフリカなどに進出した。

ビスマルク期のドイツは、経済面で大きな発展を遂げるとともに、国際社会における立場を高めた。その一方で、ビスマルクの政策は国内外で行き詰まりを呈しつつあったことも否定できない。ヴィルヘルム1世が死去した後、1888年に即位した^⑧ヴィルヘルム2世とビスマルクの対立が深まり、辞職に追い込まれたことは、そのひとつの帰結といえよう。新皇帝のもとでドイツは、世界政策の一環として海軍の大拡張を進めるなど対外進出を図り、ドイツはイギリスやフランスとの対立を深め、ヨーロッパの国際関係は二極化が進んだ。その結果として^①1914年には世界大戦へと至ることになる。

問1 下線部③について。この時期には、フランス革命とナポレオン戦争後のヨーロッパの秩序を再建するためウィーン会議が行なわれていました。この会議において決定したものととして誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① フランス革命前の王朝を正統とみなす、正統主義が原則とされた。
- ② ロシア皇帝はポーランド国王を兼ね、西に勢力範囲を拡大した。
- ③ イギリスは地中海の要衝ジブラルタルをスペインから獲得した。
- ④ スイスは永世中立国となった。

問2 下線部⑥について。この際、ドイツの統一と憲法制定を協議するための議会が開催されました。その都市を次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ベルリン
- ② フランクフルト
- ③ ミュンヘン
- ④ ケルン
- ⑤ ハンブルク

問3 下線部⑨について。この時期にオスマン帝国とロシアとの間でクリミア戦争（1853～56年）が起きました。この戦争に関する説明として正しいものを、次の中から二つ選び、解答番号29の欄を使用して二つの番号をマークしなさい。

解答番号

- ① イギリス、フランスがオスマン側、オーストリアがロシア側に立って参戦した。
- ② この戦争の背景には、黒海からダーダネルス海峡・ボスフォラス海峡への通路確保を目指すロシアの南下政策がある。
- ③ 戦後に締結されたパリ条約において、黒海の中立化が決定した。
- ④ 戦争末期に即位したロシア皇帝アレクサンドル2世は国内の改革を推進し、その一環として農奴解放令を出すとともに、国会を開設した。
- ⑤ ロシアはポーランドに広範な自治を認め、その方針は第一次世界大戦まで継続した。

問4 下線部④について。この戦争の結果、イタリアがオーストリアから得た領土について正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ロンバルディア
- ② ヴェネツィア（ヴェネト）
- ③ トリエステ
- ④ ナポリ
- ⑤ フィレンツェ

問5 下線部⑤について。ナポレオン3世（ルイ＝ナポレオン）に関する説明として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① クーデタを起こして権力を握り、国民投票により帝政を復活させた。
- ② サルデーニャ王国と同盟と結んでオーストリアとの戦争に臨み、勝利をおさめた。
- ③ メキシコの内戦に軍事介入したものの敗北し、撤退を強いられた。
- ④ 清仏戦争により清のベトナムへの宗主権を放棄させ、フランス領インドシナ連邦を作り上げた。

問6 空欄「ア」に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ザール
- ② アルザス・ロレーヌ
- ③ スダン（セダン）
- ④ ラインラント
- ⑤ オルレアン

一般選抜入試(前期日程) 世界史(1月31日)

問7 空欄 ・ に入れる組み合わせとして適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

	空欄 イ	空欄 ウ
①	カトリック	共産主義
②	カトリック	社会主義
③	カトリック	自由主義
④	プロテスタント	共産主義
⑤	プロテスタント	社会主義
⑥	プロテスタント	自由主義

問8 下線部①について。1876年、オスマン帝国史上初の憲法が発表されたものの、本戦争中に停止されました。憲法を停止した人物として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ミドハト＝パシャ ② マフムト2世
③ アブデュルメジト1世 ④ アブデュルハミト2世
⑤ ムスタファ＝ケマル（ケマル＝アタテュルク）

問9 下線部②について。ベルリン条約に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① オーストリア＝ハンガリーは、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの行政権を得た。
② イギリスは、クレタ島の行政権を得た。
③ ルーマニア、セルビア、モンテネグロは、列強諸国により独立が認められた。
④ ブルガリアは、自治公国としてオスマン帝国の主権下にとどめられた。

問10 空欄 ・ に入れる組み合わせとして適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

	空欄 エ	空欄 オ
①	モロッコ	スペイン
②	モロッコ	ポルトガル
③	モロッコ	イタリア
④	チュニジア	スペイン
⑤	チュニジア	ポルトガル
⑥	チュニジア	イタリア

問11 空欄 に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① コンゴ ② リベリア ③ ソマリランド
④ ナイジェリア ⑤ アンゴラ

問12 空欄 に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① フランス ② ポルトガル ③ オランダ
④ イタリア ⑤ オーストリア＝ハンガリー

問13 下線部③について。ヴィルヘルム2世の在位期間中の国際情勢に関する記述として正しいものを、次の中から二つ選び、解答番号39の欄を使用して二つの番号をマークしなさい。

解答番号

- ① イギリスのヴィクトリア女王が、インド皇帝に即位した。
② フランスではドレフュス事件が起き、国内を二分する事態に陥った。
③ アメリカ大統領セオドア＝ローズヴェルトは、カリブ海諸国に対し武力行使の脅しを用いた外交、いわゆる「こん棒外交」を展開した。
④ 清では、重税などへの反発を理由として、太平天国の乱が起きた。
⑤ ジャワでは、オランダ支配に対する大規模な反乱（ジャワ戦争）が起きた。

問14 下線部①について。第一次世界大戦の直接の原因となったサラエヴォ事件までに起きたできごとの順番として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- A. 青年トルコ革命
B. イタリア＝トルコ戦争
C. 日英同盟の締結
D. 英露協定の締結
E. 日露戦争

- ① C→A→E→D→B ② C→E→A→D→B
③ C→E→D→A→B ④ C→E→D→B→A
⑤ E→D→C→A→B ⑥ E→D→C→B→A